広報 横芝
この広報は各家庭に洩れなく配付します。
発行所・千葉県山武郡横芝町役場（電話）横芝 32・249・339

広報告知板

6月は
町県民税
国保税
有線放送使用料
各第1期の納期です

（お忘れなく今月中に納付して下さい）

赤いカーネーション

今から五五年程前北米合衆国ウエスト、ヴアジニア洲の或教会にチャルヴイスと呼ぶ夫人の牧師が有った。聖書の十戒から引用し「母の恩は無限である、この恩を謝し、擴大な愛情を人にも知らしめよ」と信者を戒めていた。後に夫人が逝くなり、追悼会が開かれたとき、娘のアンナは〃母を思う心〃から一束のカーネーションの花を霊前に供え〃母の思い出〃を来会者に語り、その切々たる愛情に満ちた話は聴衆に少からぬ感銘を与え、「母を敬う運動」となった。赤いカーネーションは、娘アンナが母の霊前に供えた造花を記念するものである。

なぜ農業構造改善は行われるか

――這いつくばる農業から眺め廻す農業へ――

「農業構造改善事業」ということが、どこの農村でも話題になっております。もう一部の市町村では実際に仕事を始めております。この町でも、来年度から行われることになっております。一体農業構造の改善は、実際にどんな方法でやられるのでしょうか……

▽農業もこのままでは

ところで、十年前にくらべれば、たしかに農業のやりかたも、機械が入り、農薬も新しいものができ、技術も進み、耕地整理も進んでおります。人手も昔ほどかからなくなりました。

しかし、農地改革によりほとんど自作農になりましたものの、やはり耕作している面積は、昔と大差ありませんし、耕地を集団化して作業をやりやすくすることもそれ程進んでおりません。米や麦の反当りのとれ高も少ししか殖えていません。そして、さて売る値段となると、特殊な作物を除いては農家の希望する値のようにばかりは売れません。要するに、若干の農耕のやりかたが変って、手間は楽になったが、経費をかけた割には儲からないということが事実のようです。

ですから、世の中の進み具合に合った生活なり、収入が得られないで、都市と農村の差が、だんだんと大きくなるので、若い人が農村から離れていく傾向が進んでいるわけです。

▽農業も大切な産業です

しかし、農業以外の産業がよくなれば、農業はどうなってもかまわない。機械や、織物や、食器や、薬などを外国に売って儲けて、食糧は外国の安いものを買えばよいではないかという考えの人がいるのですが、これは大変な間違いだということです。

なぜならば、日本の恵まれた国土と、気候、水という天然の資源を利用して必要な食糧などをできるだけ国内で間に合せるという、大きな目標を忘れてはならないことが第一です。実際問題として、今でも輸入している農産物が、輸入額全体の二割近くを占めています。国際収支がすぐに景気にひびく実情を思うとき、輸出する物にも、買う国にも限度があり、大巾な期待ができないことを考えると、農作物を、今よりも多く輸入しようにも、国のふところがゆるさないということがいえます。

もう一っは、人の問題ですが、農業で直接働いている人が、日本全体で働いている人の三割近くいるわけです。そして、農産物を原料として加工している人、農業に使う機械、農薬を作る人などで、農業があるために働いている人が沢山いるわけです。もしも、農業が落ちぶれてしまえば、これらの人は失業です。かといって、他の産業で働くにもこんな沢山の人は、必要がないということになりましょう。このようにしてみると、農業という産業は、我が国が今後ますます発展するための基本的な産業で、絶対に必要であるということがいえるわけです。

▽農業にも体質改善を

ところで、農業が国の経済のなかで、それ程重要な役割をはたす産業であるならば、農産物の価格にしても、耕地整理にしても、いろいろと国がもっと補助すべきだという考えがあります。ごもっともな意見です。しかし、農業のやりかたなり、作るものなり、土地の整備なりが、これ以上直しようがないというのであれば、直接の補助も必要となるでしょうが、まだまだ、我が国の農業には改造、改良の余地が沢山あるわけです。

この沢山改善の余地のある点に、国なり、県なり、市町村なりが援助して、立派な産業としてのばしていこう、儲かる農業を造る手だすけをしようということが、きめられたというわけです。

すでに、進んだ農家では、自分の力だけで、努力してやりとげた人々も沢山あります。一戸でなく数戸が力をだし合って都会の人に負けない所得をあげる農業にはげんでいる方もふえています。このような働き方は非常に正しいやり方なのですが、農業全体から見ると、できる人が少いわけです。また力があっても足ぶみをしている人もいます。そこで、約十年ぐらいの目標で、市町村が農業の建直しを計画し、その計画が実現するように、国の予算や、都道府県の予算、市町村の資金と、農家に対する融資（近代化資金や農林漁業金融公庫からの融資で、この分は農家が返済することになる直接な負担）によって、各農家がばらばらでなく、全体として農業の体質改善を進めようということが始まるわけです。

このように、農業のやりかたをいろいろと建直すことを、国の産業開発という大きな見方に立って政策をたてたり、裏付けをしていくことを、農業構造改善というのです。そして、具体的な仕事として事業を行うことを農業構造改善事業というのです。

▽農業の体質改善はできるのか

とにかく、明治以来、一農家平均大体一町歩（一ヘクタール）を耕作し、米と麦を中心とした農業を続けてきたのですから、ここで、面積をふやすことに重点を切りかえるといっても、不可能ではないにしても大変なことで、大改革なわけです。

ただ、昔と世の中がかわってきて、農業の働き手が、だんだん減っています。とくに若い人が減っています。それなのに大体昔と同じ方法で農業はつづけられているので、人手が足りないわけです。雇い人もなかなかいません。思い切って農地を手ばなすこともできない。反対に農地をふやそうにも、機械を入れようとしても、畜舎を建てるにも金がない。制度上に無理があるという八方ふさがりが、今の姿なのです。

しかし、このままで、なりゆきまかせでよいと考えている人はいないでしょう。何か、皆で力を合せて根本的な改革をやらなければならないことになります。

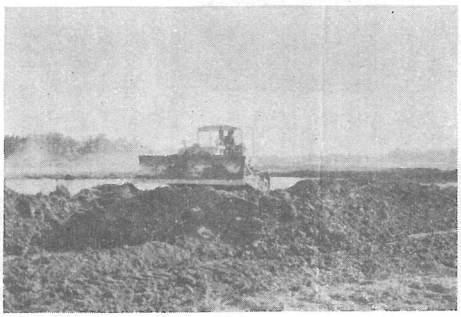
ところで、根本的なこととなりますと、農業のなかだけでの手なおしというわけにはいきません。ほかの産業を含めた国造りということになります。農業の働き手が減っているということも、結局は農業以外の産業に引っぱられているわけで、これからも予想以上に人が減る可能性がありますので、少い人手で大きな農業経営ということも、他産業の発展したおかげで、昔はできなかったことですが、今日ならやる下地はできているわけです。も一っ、根本的なやり方となると、農業の働き手が、ある程度は減るが、驚くほどに他の産業に引っぱられないとするとするならば、その場合の構造改善には、どうしても、農地を増やそうとすれば、開拓や、干拓をして新しく農耕地を造ることをしとなければ、一人で大きな面積を耕作することができないわけです。

ただ、新しく開拓や干拓などによって農耕地をいまより増やすには、そんなに国の中に土地があるかということも心配ですが、作るものが米ばかりであっては、米が余るということになりますから、足りない飼料などを中心に作り、畜産に進むことになるでしょう。

▽体質改善のやりかた

しかし、今年からはじまる農業構造改善の仕事は、農業から、或程度人手が減るという見方にたって、人の減り方に合った農業のやり方、需要にあった作物の選び方をして農業の近代化を進めようとしています。ただ人が減るといっても、無理に減らすような計画的な方法は、自由経済のわが国ではとれませんから、お互いの納得の上で、時代の進みかたに応じた方法で知恵を出しあってやるわけです。

日本全国を同じ方法で強制的にやるわけではありません。国なり府県なり市町村が補助金を出したり援助する基準はありますが、あくまでも市町村で自由に考えた農業の近代化方式が中心になるわけで、金さえ或程度自由に使える見込がある地域では、相当大がかりな進んだ方法が行なわれるでしょうし、金も熱意もない地域では、わずかな予算を適当に使ってお茶をにごすことになりかねません。どのような道を選ぶのも自由なわけですが、要は皆さんがこの大事業に対して、どう考え何を希望し、前向きで進むか、無関心ですごすかにかかっているのです。（以下次号）



――干拓、土地改良、養魚場施設も機械化で――

横芝町議会議員決る

横芝町議会議員投票は、去る四月二十日、五会場の投票場で執行された。気付われた天候も晴天に恵まれ出足は上々で全会場を平均すると、九〇、六四％（事実上の不在者で選挙人名簿に登録されているものを除くと殆んど百％近い訳）という投票率で、町民各位の愛町精神の表れとして関係者は喜んでいる。

新議員（再選含）の顔ぶれ（いろは順）

伊東　巌	屋形	農業	前	川島　義雄	横芝	医師	前
市原　茂雄	鳥下	農業	新	斉藤　元一	北清水	農業	前
伊藤　博	鳥新	農業	前	鈴木英太郎	栗山	農業	新
岩沢　英一	横芝	文具商	新	鈴木　繁	横芝	会社員	前
伊藤　右仲	遠山	農業	前	芹川　昌栄	北清水	団体職員	新
伊藤　謙	中台	農業	新	高橋　正	横芝	コンクリート工業	新
八角喜久夫	寺方	農業	新	長野　康己	横芝	医師	新
早川　公平	屋形	農業	元	藤城　顕義	横芝	時計商	前
平山　清	長倉	農業	新				
大木　正	木戸台	農業	新				
小川　潔	新島	農業	新				
河井　昇	屋形	農業	前				

尚五月六日初町議会を開き議長伊東　巌副議長伊藤　右仲両氏を選出した。

議会だより

昭和三十八年第三回横芝町議会臨時議会は、五月六日午前十時に招集され、次の事項を審議決定した。

○議長選出について

改選後初議会の為、地方自治法第一〇七条の規定により、川島義雄議員が議長となり審議、投票の結果、伊東　巌議員を議長に決定。

○議席の決定について

抽籤の結果、一番市原議員二番早川議員、三番川島議員四番小川議員、五番鈴木（英）議員、六番八角議員、七番伊藤（博）議員、八番河井議員、九番高橋議員、十番長野議員十一番斉藤議員、十二番藤城議員、十三番伊藤（右）議員、十四番大木議員、十五番伊藤（謙）議員、十六番岩沢議員十七番平山議員、十八番鈴木（繁）議員、十九番芹川議員、二十番伊東（巌）議員

以上の通り決定。

○副議長選出について

投票により得票最高位、伊藤（右）議員、伊藤（博）議員同数となり、抽籤の結果伊藤（右）議員に決定。

もう使用出来ない通学道路際のごみ捨場

別に条例等で定めた訳ではなかったが、何時かごみ捨場となってしまっていた東町方面通学道路際のごみ捨場は使用禁止となりました。今後は古川地域に出来たじん芥焼却所で専門の係によって処理されることになりましたので、今までごみ捨場に持って行っていたようなものは、じん芥焼却所まで運ぶか又は業者に依頼して運んでもらうかすることになりました。若し、これから後、今までの通学道路際のごみ捨場にごみ類、汚物その他を捨てると、条例違反で厳重に罰せられることになりますので、特に御注意下さるように、と役場の係は云っております。

固定資産評価調査についてお願い

土地と家屋の評価替えのために、いま現地調査を行っております。農地については、役員さん方のご協力によって既に終了しておりますが、宅地については上町、本町を終え、いま東町地域を実施中であります。

家屋は上町地域が、近日中に終了するはずですが、土地家屋のいずれにしても、つまりは課税の基礎になるものですから精密な調査が必要です。

特に、家屋については一棟ごとの格差が大きいので、その精度も高いわけです。

したがって、調査は家屋の内部にまでも及ぶ関係から、皆さんには不愉快なこともあろうかと思われます。

しかし、これは、適正な価格を求めるために欠くことのできない調査でありますので、この点ご理解の上ご協力をいただきたくお願いいたします。なお、調査にお伺いする場合は、まえもって回覧板などでご連絡いたします。

また、係員は必らず身分証明書を携帯しております。尚職務上知り得た個人の祕密は決して他にもらすことはできないことになっておりますので此の調査についての全面的な御協力をお願いいたします

若妻学級その後の成果

耕耘機免許受験者一〇〇%合格

〃今日こそ免許証を手に〃と敢然と晴の受験場松尾中学校の校庭に望んだ横芝町婦人部隊は農協青年部長大木信男氏を中心とする指導者グループ及八ミリを手に激励に余念ない町長さん方に見守られながら自信慢々と受験に応じ、午前の学科については殆んど全員が合格し、午後実地試験でも不運の二、三人を除いては見事関門を通過した。その不運組の者も光町の追試験には全員合格し、結局一〇〇%という好結果を得て、陰になり、日向になりして心配していた町長さんや婦人学級関係者は大喜びである。

尚、受験まで指導に当った農協の某氏は「大丈夫とは思いましたが結果が発表されるまでは心配でした、そうですね、弟の高校受験の時より心配しました……」と話していた。

何にしてもこんなに心配してもらえる横芝の婦人連は幸という外わあるまいと思う。

慎重に受験を進める婦人と
それを見守る町長

追憶

思えば随分長い養療生活である。

入所したその日、お隣りの方に、どのくらい寝てますか？と聞いたら一年だといった。驚くよりもあきれちゃった。

よくもまア、こんなに寝ていられたものだと思った。

その自分が十年選手になろうなどとは夢にも思わなかったからだ。

今では夢の中の大海に一人浮き沈みしているような、また孤島に一人静かに住むような淋さを楽しみながら、その日その日を迎えている。

こうして闘病生活も身についてくると、あの堪えがたい不安と寂寥に襲われることも少くなって、いわゆる療養ボケとでもいうか、ただ食べて寝て暮す単調な日日も、たいして辛いとも思わなくなってきた。

あらゆるものにあこがれて悩み、野心と感激の宴のような青春時代も病床で見送り、ときには取り返しのつかなくなったような気持になることもある――しかし、生来の楽天的な性格が幸いしてか、何時かそんなことも忘れられる自分になってきた。

山の彼方に待つという倖せを夢みることはロマンチックで美しく、現実を忘れるにはいいことだ。

つい足もとに埋もれている小さな倖を探しあてることも、まんざら愚かなことではないと思う。

だけど、ときには自分などの足もとにどれ程の倖せが埋れているだろうか？　などと思いなおすこともある…が…努めて善意に、善意にと心がけている

この〃苦しみ〃を楽しむ心をわかって貰えるだろうか。

今朝、おとぎの国からでも流れてくるようなラジオの童謡を聞いていたら、ジーンと熱いものが込みあげてきた。

幼なかった頃、なんの苦労もしらずに、なんの屈託もなく遊び暮していた明るい春秋……あの青い空を不思議な想いで仰ぎながら、赤いほおずきを鳴していた遠いあの日！

あれから、もう二十幾年も経った今日、帰らぬ童女の日の憶い出が懐かしくてたまらなくなった。

できることなら十年間の療養生活にもうこのへんで終止符を打って、あの懐かしいシヤバ」の風に吹かれてみたいものだ。こんなことを思いながら「ベット」の上から青空を眺めていると、儚いあこがれを乗せてでもいるかのように、白い雲がポッカリと浮んでいた。

友ありて

〇〇〇〇

――ようやく東京が歩けるようになりました。現気で動いています。先生を東京見物に呼ぼうと思っていましたが、つい忘れて級料を貯きんしてしまいました許して下さい―

これは今年中学を卒業して東京に就職したS少年からの便りである。誤字もあるし文体も整ってはいないが何か心に響く手紙にM先生は思わず眼頭の熱くなるのを覚えた。そして、三年前の頃をしみじみと想い出すのであった。

何時もの通り出席をとっていたM先生は、S少年の席が又空いているのに暗い気持に誘われた。今日で十日も欠席が続いている。就学前に父を失い、盲目の母と、何時か母の相談役だと云って居座ってしまった義父は頑迷で「百姓に学校は要らない」と遊びたい盛りのS少年に百姓仕事を手伝わせ、教科書類も満足に与えず学校を休ませる位は常であった。そんな理由からか学校でも級友の鉛筆や帳面を盗んだり、下級生の持物を取上げたりする所謂問題少年であった。五日程前に家庭訪問をした先生に「Sはもう十五才だ、勉強なんか要るもんか、わしらの田畑で穫れる米麦を食っているんだ、学校より働くことが第一だ」と力む義父に、ただ、オロオロとする母、そんな中え軀に不似合いな万能を担って帰って来たSは先生の姿を見ると、コソコソと裏の方え逃げるように隠れて行った。近所の人の話では、小遣は勿論子供達仲間での楽しみである天神講の仲間にも入れず、一人で神社の境内や畑に寝ころんだりして遊び、時には賽銭箱や西瓜畑も荒す大人達の嫌はれ者ということであった。

・小遣をもらえない少年……
・遊び仲間になれない少年…
・毛嫌いされる少年……
・幸うすい少年、児章憲章は

……交々そんな事を考えながらS少年の席を見つめる先生に

「Sさんは畑に寝ています」

「家え帰ると叱られるんです」

「S君の家の人は悪いんです S君を無理に休ませているんです」

「S君は毎日一人で麦刈りをやらされているんです」

…喧喧として大人に抗議する批判の叫びの中から、

「先生Sさんの家の麦刈りを手伝いに行きましょう」

「そして僕達でS君が学校え来られるように家の人に頼みましょう」……此の声はM先生には予期してもいなかった神の声に近いものに感じた。

「そうですね、それはいいかもしれません、それでは先生も仲間に入れてもらいましょうね」とむしろ生徒の計画に仲間入りをさせられる嬉しさに再び眼頭が熱くなってきた

……次の日曜日……

突然の級友の応援に面喰うSとその父母……元気に麦を刈る男生徒、麦束を運ぶ女生徒……今日は明るく仕事に精を出すS少年………

「先生様、子供達に教えられました。Sは必らず学校え出します、休ませません」……手を着かないばかりに恐縮するS少年の母と義父の言葉に嘘はなく、次の月曜日の教室には朗らかな級友に囲まれているS少年の姿があった。その後明るい少年達の話を聞き知った児童委員の協力もあってS少年には教育費補助等の配慮もあり、農繁期の数日を除いては殆んど欠席もなく又賽銭釣の噂も全くなくなったし、下級生をおどした話も遂に聞かなかった。

そして三年、元気にS少年は卒業して行った。

国民貯蓄組合法が廃止され

小額貯蓄制度が発足

創立以来二十年以上の歴史を有する国民貯蓄組合法は、本年三月をもって廃止され、これに代って新たに〃小額貯蓄非課税〃の制度が所得税法に規定されることになった。

従来国民貯蓄組合は零細な貯蓄者を優遇する為に発足した制度であるが、途中において、架空の名儀で分割預入をして此の制度を悪用するものも現れ本来の主旨を混乱させて来た。そこで、その幣害を防止して健全な運用を計る為預金者及金融機関の協力を得て此の改正となったのである

さて、この制度の概要を預貯金を主として掲述して見ると金融機関に対する預貯金は勿論、所謂社内預金も対象とされている、ただ社内預金については会社を通じて税務署に届出をすることになっている

それから窓口組合の取扱預貯金の期間は大ケ月以上とされていたが今度の制度ではその制限が全くないことになった

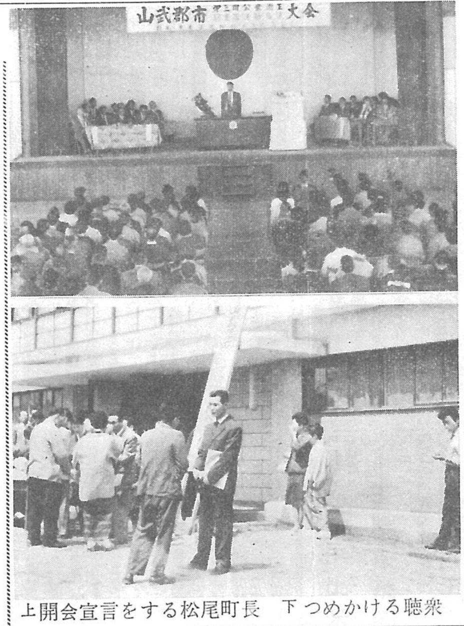
又非課税となる利子所得については、一人一件に限って五十万円まで非課税という規定になっているが、これは税法による控除額ではないので若し仮に八十万円が元本だとすれば八十万円に対して課税され、此の八十万円を、五十万円と三十万円の二口にすれば五十万円は非課税となり、三十万円だけが課税対象となる訳である。

非課税対象の手続きについては、預入をする金融機関を通じて〃非課税申告書〃を税務署に提出し、更に実際預金をする時に〃非課税貯蓄申込書〃を提出する。この二つの提出書類の関係は一見面到に見えるが、例を米穀を購入する場合にとって見れば、米屋に登録をし、次に現品を購入に行く場合の二つと考えれば了解されると思う。それに、届書類の記載内容については預入しようとする金融機関の窓口に相談すれば代理記入位のサービスはしてくれるだろうし、そうしてもらうことが一番間違いがない方法と思われる。

以上紙面の都合もあり、説明の足らない点が多くあると思われるが、詳細については役場最寄りの金融機関或いは役場内貯蓄係におたずねになられることをお奨めいたします。

三十八年度公衆衛生大会開催さる

五月七日横中体育館で！



上開会宣言をする松尾町長　下つめかける聴衆

山武郡市公衆衛生大会は去る五月七日装いも新たな横芝中体育館で開催された、五月の薫風すがすがしく吹き渡り、大陽亦会場にほほ笑みかけるという絶好の大会日和、加えて午後にはNHKラジオドクター佐藤先生の講演、数々の展示図表とあって、松尾町長朝比奈正行氏の開会宣言の頃には殆んどの椅子が埋めつくされる盛会であった。そんな中で、押尾厚生課長を中心とした役場職員の甲斐甲斐しく立ち働く姿と、地元業者の惜しみない協力は来会者に多大な感銘を与えた模様であった。尚当日公衆衛生に功労のあった方々に感謝状並びに表彰状の受与があったが、本町からは次の諸氏がそれぞれ受彰した。

県衛生民生部長表彰
　獣医師　浅野　誠三

松尾保健所長感謝状
　医師会　真行寺学子
　食　品　伊東　重雄
　美　容　伊藤　すず
　薬友会　向後　仲
　食　品　伊藤貞次郎
　結核予防　伊藤熊次郎

新生活推進連協会長感謝状
　寺田栄次郎、佐瀬　正雄
　越川与司夫、川島　義之

町民室が出来ました

どんなことでも相談を

「かねて計画中の町民室は六月一日に店開きをしました、○自分で解決できない心配ごとや紛争の調定について、○県庁や役場に対する希望や苦情、○生活保護、戸籍、年金税金等、いろいろの届や申請のことについて、其他どんなことでも、どうぞお気軽に相談に来て下さい」

これは、今度新設された町民室からの偽りのないおしらせでです。

今までは各係とも公開的に過ぎ、一身上の事柄等公開をはばかる問題については、其の場でお聞きすることが出来ず、「何を何処で聞いたらよいのか」も分らず随分御迷惑だったと思います。

今度出来た町民室は、伊藤俊氏（元横芝町厚生課長）を専門職に発令し、特に一室を設けて皆様の御相談に応ずることになっています。「勿論秘密に属することは絶対他に漏らさない仕組みです、どうぞ御心配なく」と申添えております。

尚、千葉地検の聴訴室や県政ポストの取扱い及人権擁護の問題についても仲介の労をとることになっております。

○千葉地検！県民の声を聞く聴訴室－場所は地検庁舎－

五月一日から発足しています。千葉市市場町二番地、千葉地検内　聴訴室宛に手紙を出されるか、千葉二局四一九一番で調査課長宛に電話連絡をされれば、面接の日取りが回答され、調査係官（特に必要のある時は検事正）が直接相談に応じ、〃法律で解決できることなら、極力その方法について相談と機会を与えようとするのである。詳しい点については町民室においでになり仲介斡旋を依頼されれば御便利だと思います。

○県政ポストについて

県庁では六月一日を期して県下の市町村に〃県政ポスト〃を設置して、県知事又は各所管の責任者が県民の声を直接手紙によりお聞きし、その望む声を聞いて、その要望にお応えすることになっております。横芝町では、役場及大総上堺両公民館にポストを設置しました。切手は要りませんのでこれも気軽に御利用下さるよう希望いたします。

詳しい点は有線放送及回らんでおしらせしますが、町民室の御利用も結構と思います